

## 本年度の連携協力実習校が決定しました！

平成30年7月10日(火)に平成30年度第1回「宇都宮大学教職大学院運営協議会」と「教育実践プロジェクト連絡協議会」が開催されました。どちらも年2回開催しています。前者は、宇都宮大学大学院教育学研究科と栃木県教育委員会・市町教育委員会で行い、教職大学院の教育内容・方法や指導体制の向上を図っていくものです。後者は、教職大学院の実習科目「教育実践プロジェクト」の円滑な実施のために、連携協力実習校の代表者を含む関係者で行います。定期的に行われるこれらの会議は、教職大学院が教育委員会や学校と連携・協働をする上で大変貴重な場となっています。

### ◆ 教職大学院運営協議会

会長に選任された伊東明彦宇都宮大学大学院教育学研究科長の司会進行によって行われました。平成29年度の運営報告では、教員養成評価機構による認証評価が無事に終了したこと、教職員支援機構との協定を締結したこと等が報告されました。また、平成30年度の運営計画について協議が行われ、本年度の連携協力実習校の案について承認がなされました。本年度は、連携を希望した学校の約4割が実習校となりました。

意見交換では、「教職大学院についてより広く知っていたるように、機会を捉えて更にPRに努めていく必要がある」ことが確認されました。教職大学院の広報・周知の工夫は、常に課題として挙がっているところです。多くの方々にご志願していただけるように、具体的な方策を更に考えることが必要となっています。



### ◆ 教育実践プロジェクト連絡協議会

松本専攻長が欠席したため、久保田善彦専任教員が代理で司会進行を務めました。平成29年度運営報告がなされ、平成30年度連携協力実習校での大学院生の研究テーマと指導チームについての案が承認されました。会の後半は、出席いただいた学校からのご意見等を順にうかがいました。継続の学校からは、これまでの取組について感想をいただきました。新規の学校からは、今日の会議を通して先が見えてきたという感想もありました。



教職大学院の連携協力実習校での研究はオーダーメイドの研究となります。そして、お互いにWin・Winの関係を目指して行っていくところに特徴があります。院生の実習に対して期待を寄せる声も多かったので、今後もその声に応えていけるように実習内容の充実を図っていきます。

なお、院生配置のなかった連携協力校には、ご希望に応じて、校内研修等での支援を行っていることもお伝えさせていただきます。

### 《平成30年度連携協力実習校と実習生数一覧》

※小学校 12校、中学校 10校(宇大附属小中を含む)、  
県立特支校 3校

- 宇都宮市立峰小学校(現職1名)
- 宇都宮市立石井小学校(現職1名)
- 宇都宮市立城東小学校(現職1名・学卒1名)
- 上三川町立明治南小学校(現職1名・学卒1名)
- 鹿沼市立楡木小学校(現職1名)
- 鹿沼市立みなみ小学校(現職1名)
- 壬生町立稲葉小学校(現職1名)
- 下野市立薬師寺小学校(現職1名)
- 下野市立国分寺東小学校(現職1名)
- 那須塩原市立南小学校(学卒1名)
- 足利市立桜小学校(現職1名)
- 宇都宮市立陽東中学校(学卒1名)
- 宇都宮市立泉が丘中学校(現職1名)
- 宇都宮市立上河内中学校(現職1名)
- 鹿沼市立北犬飼中学校(学卒1名)
- 真岡市立久下田中学校(現職1名)
- 栃木市立大平中学校(現職1名)
- 那須烏山市立南那須中学校(現職1名)
- 高根沢町立阿久津中学校(現職1名・学卒1名)
- 那珂川町立馬頭中学校(現職1名)
- 栃木県立足利特別支援学校(現職1名)
- 栃木県立足利中央特別支援学校(現職1名)
- 栃木県立今市特別支援学校(現職1名)
- 宇大 附属小学校(学卒3名)
- 宇大 附属中学校(学卒3名)

(文責:日野圭子)

## 「道徳科の評価」 教育実践高度化専攻准教授 和井内良樹

周知の通り、今年度より小学校及び特別支援学校小学部において、教科用図書(教科書)を用いて「特別の教科道徳」(道徳科)の授業がスタートしました。昭和33年に道徳の時間が特設されてからちょうど60年目で、道徳科は還暦を迎えました。ところで、教科になると教科書の使用とともに、評価を行うことになります。学習指導要領(H.27一部改正、H.29告示)には、「学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす」こと、そして、従来と変わらず「数値などによる評価は行わない」ことが示されました。評価の詳細については、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」(H.27.6.5～)が計10回の検討を重ね、「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)(H.28.7.22)にまとめました。

道徳科の評価は、一言でいうと、子供を認め、励ます支援的な評価ということです。別に表現するならば、子供のよい点や可能性、進歩の状況を一人一人にフィードバックする教育的なアプローチです。基本的な考えとして3点に着目すると、1つ目は、道徳科の評価は子供のよさや可能性を伸ばすためにあるという点です。子供の人間的な成長を見守り、子供自身がよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気づける働きとして捉えられます。2つ目は、人格の全体に関わる道徳性は数値などによる相対的な評価や分析的な評価はなじまないという点です。道徳科の評価は、個人内評価、記述式、内容項目ごとには行わない大くりな評価などの特徴があります。3つ目は、評価と指導の改善は表裏一体である点です。指導のねらいとの関わりにおいて子供の学習状況や成長の様子を様々な方法で捉えて、それを子供に確かめさせたり、それによって自らの指導を評価したりし、指導方法の改善に努めることが求められます。

学習状況や成長の様子を把握するにあたっては、子供が、多面的・多角的な見方へ発展させているか(深く考えているか)、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか(自分事として考えているか)を見取るための様々な工夫をしていくことが必要とされます。中学校では、年に数回、教師が交代で学年の全クラスを回って道徳の授業を行い(通称:ローテーション授業)、担任が自分のクラスの授業を参観できるようにするという取り組みも実際に行われているようです。

### 《シリーズ:院生の声 ④》

#### 支えとなるもの

私の苦手なこと。

○会ったばかりの人と意見を交わすこと。

○付箋と模造紙を使って研究会をすること。

これらの『苦手』が一度に襲ってきたのが、この教職大学院に入学した、昨年(2021年)の4月でした。嫌で嫌で、逃げ出したいと思った日々。教室に入ってくる先生の手元にある付箋を見る度に「今日もか・・・」と肩を落とした日々。しかし、いつの間にかその不安は小さくなっていき、今では気合いを入れれば乗り越えられるくらいに軽減されました。その要因は、教職大学院の仲間が私の『苦手』を受け入れ、支えてくれたこと。どんな私も認めてもらえるという安心感が、私に一步を踏み出す勇気を与えてくれたのだと思います。教職大学院で出会った仲間は、私の学びの支えです。

特別支援学校での経験の中で、たくさんの『苦手』をもった子ども達と出会いました。例えば、外界へ意識を向けることが苦手な子。何をやる場面でも、その対象が新奇なものや不安なものであった場合、“泣く”という自分から発することのできる唯一の手段で意思を表出し、なかなか受け入れることができません。新しい一步を踏み出すつらさに耐え、苦しんでいたその子のことを考えたときに思い浮かぶのは、私にとっての仲間の存在です。私が『苦手』を克服し、一步を踏み出すために、教職大学院の仲間という支えが必要であったように、その子にも、『不安』を共有し、それを共に一つずつ『安心』へと変えていける存在が必要だったのではないかと。そして、その安心感を土台にし、新たな一步を踏み出すための支えとなれる存在が必要だったのではないかと。今、私が抱えている思いです。

これから出会うたくさんの子ども達にとっての支えとなり、その一步を共有できる相手となれるよう、これから努力していきたいと思っています。そして、これらのことに気付かせてくれた仲間達の存在に感謝し、残り少ない日々も学びを深めていきたいと思っています。(2年 村田有美)

#### 良い聴き手となること

教師は話すことのスペシャリスト。教職大学院に入学するまで、私はそのように思っていました。教職大学院に入学し、「現職の先生や教授の先生方は話が上手だなあ」と最初に思ったのを覚えています。しかし、院生生活で先生方と関わりをもたせていただく中で、先生方は共通して、「聴き上手」であることに気づきました。まずは相手の話をよく聴き、決して否定をせず相手を受け入れる。先生方は全員、そのような姿勢を常に大事にされています。私はどちらかという話す方が好きで、人の話をよく聴くことが疎かになってしまいがちですので、先生方のそのような姿勢は私にとって大きな学びになっています。

私は現在、ある小学校のクラスにTTとして入らせていただいています。学習指導や児童指導の場面では、まず子どもたちに「なぜそう考えたのか」や「なぜそのような行動をしたのか」を、目線を合わせて聴くように意識しています。良く聴くことで心を寄せられ、見えてくるものがあると今は思っています。

教師のSOS(S・しゃべりすぎ、O・教えすぎ、S・しきりすぎ)にならないためにも、教職大学院での学びを大切に、「良い聴き手」になっていきたいと思っています。



(2年 伊藤 駿)

《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350番地 Tel: 028-649-5242

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook : <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。

